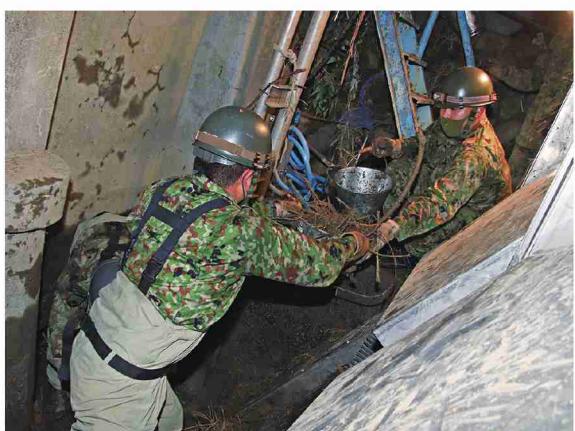


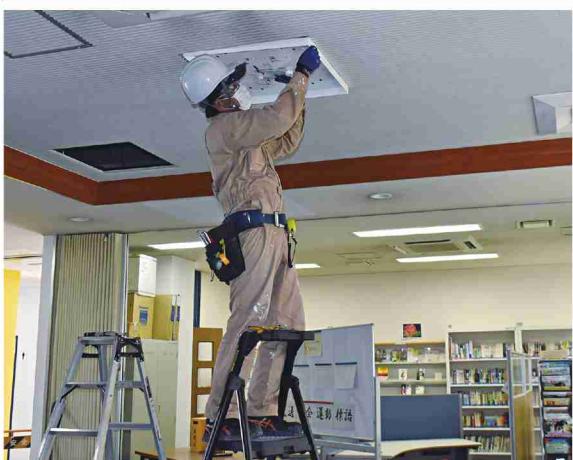
方面隊は9月26日から10月3日までの間、静岡県内において台風15号による大雨に係る災害派遣を実施した。台風15号は9月24日に発生し関東や東北南部などで激しい雷雨となり、静岡市清水区などでは興津川の取水口に大量の流木や土砂が詰まつた影響で、6万戸を超える大規模な断水が発生した。この状況を受けて静岡県知事は、給水支援活動及び浄水場内の土砂除去支援、孤立集落の住民の避難支援、災害廃棄物の撤去支援に係る災害派遣を申請をし、第34普通科連隊長はこれを受理した。災害に派遣された部隊

静岡県内各地で給水等支援

台風15号による大雨に係る災害派遣



浄水場取水口の土砂を除去する
第34普通科連隊の隊員



厚生センターの内装工事を行う隊員（新町駐屯地）

方面隊は9月6日、朝霞駐屯地において第1施設団、東部方面混成団及び方面直轄部隊の中隊長

等に対し、令和4年度第2回方面直轄部隊中隊長等集合訓練を実施した。

は内容をより深く理解でき、重点を把握した効率的な教育とすることがで

新たな「気付き」を得たり、共通の問題点を認識するとともにその解決策を確立する。すなはち、有意義な

異なるついても問題点等については共通部分が多いため、この点も認識できた。

作戦遂行能力向上をテーマに討議

中隊長等集合訓練

の職務分析を踏まえ、中支援隊通信教育直接支援隊等の作戦遂行能力向上させるために、中隊長等として取り組むべき事長として認識しておかなければなりません。

第7代方面隊最先任上級曹長に大久保准尉



見送りを愛はる第6代最先任 太平准尉



太平准尉(左)と固い握手を交わす太々保准尉(右)



第7代最先任に上乗した太久保准尉

大久保准尉は上番するに当たり「大平准尉から重いバトンを引き受け、光栄であるとともに大変身の引き締まる思いである。今後は各部隊の現場に積極的に進出し、隊員とのコミュニケーションを図り、皆のパイプ役として隊員の思いを総監に伝えていきたい。強靭な東部方面隊を創り上げるためにわれわれ下士官（准曹士）が要である。皆の先頭に立つて頑張っていきたい」と所信を述べた。

組み、より良い隊員の育成に尽力した。下番するに当たり「組織で戦う自衛隊には隊員相互の信頼が何よりも大切である。先輩は後輩に対し、親愛の情を持つて、強く優しく・時には厳しく育成するとともに仲間を信頼し、指導することが重要である。各人は崇高な使命を自覚して日々の教育訓練に精励して欲しい。隊員一人一人が努力を続けることが、強靭な東部方面隊の創造に繋がるものと信じている」と述べた。

任している。大平准尉はこれまで旺盛な責任感と熱意溢れる指導により方面隊の任務遂行に寄与した。特に人材育成の面においては、新隊員教育を始め各種教育入校等の現地指導を積極的に行う等熱意をもつて取り

方面隊は10月3日、朝霞駐屯地において東部方面隊最先任上級曹長交代行事を実施した。第6代東部方面隊最先任上級曹長 大平准尉は監視部付となり、新たに第7代東部方面隊最先任上級曹長として大久保准尉が上番した。大久保准尉はこれまで第34普通科連隊最先任上級曹長、第1師団最先任上級曹長等の要職を歴

第12旅団

防災関係機関との連携を強化

災害対処能力の向上を図る



被災者を救助する第12後方支援隊の隊員



12.7mm重機関銃を射撃する隊員

旅団は9月14日から22日までの間、六ヶ所対空射撃場（青森県）において射撃練度の向上を図る目的で、令和4年度12.7mm重機関銃（HMG）対空実射訓練を実施した。本訓練は第30普通科連隊長を担任官として行い、良好な訓練基盤の下、参加隊員は練成を重ねた。9月16日には現地指導に訪れた旅団長に対し、成績を遺憾なく発揮する等、多大な成果を収め、訓練を締めくくった。旅団は本訓練で得た成果を総括して共有し、旅団全体の対空戦闘能力向上につなげる。

対空戦闘能力向上

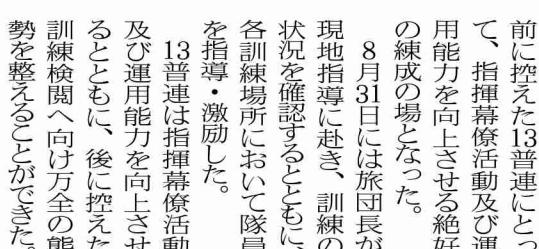
六ヶ所対空射撃場で重機関銃射撃



第13普通科連隊の指揮所



現地指導する旅団長（写真右）



第13普通科連隊は8月27日から9月2日までの間、指揮所訓練センター（朝霞駐屯地）において

実施された令和4年度第3次旅団指揮所訓練センター訓練に参加した。

本訓練は指揮所訓練統一訓練シス템を用いた指揮所訓練により、連隊本部以下の指揮幕僚活動

13普連

第3次旅団訓練検閲を視野に演練

指揮幕僚活動及び運用能力向上

実施された令和4年度第3次旅団指揮所訓練センター訓練に参加した。

本訓練は指揮所訓練統一訓練シス템を用いた指揮所訓練により、連隊本部以下の指揮幕僚活動



体験搭乗を思い思いに楽しむ参加者

旅団は9月10日、相馬原飛行場においてCH-47による体験搭乗を実施した。

本行事は旅団協力者、

基盤の拡充を図ると

して、自衛隊への理解の促進及び防衛

訓練による体験搭乗を実施

した。

また本行事は、旅団司令官

部、相馬原駐屯地、新町

駐屯地、吉井分屯地、自

衛隊群馬地方協力本部及

び自衛隊長野地方協力本部及

び合同で実施した。

当日は天候が危ぶまれたものの、フライトの時

間には青空が見えるほど

に回復し、第12ヘリコプター隊のCH-47 2機

が飛行場に到着した。

乗組員は、乗組員は、

新隊員後期教育終了 施設特技を修得し部隊配置



直柱と横材の結束(第4施設群)



起爆準備(第5施設群)

施設団は7月4日から
9月16日までの約3ヶ月

間、第4施設群43人、第
5施設群25人にに対する新

設員特技課程後期(施
設)及び一般陸曹候補生

課程後期(施設)教育を
実施した。

新着任者に対しても
勤務共通事項を教育

この間、隊員たちは施
設科の基礎である土工・
木工・植杭・連結・重材
料の取扱い・漕舟・爆破
等の各課目を履修し、施
設科員として必要な知
識・技能を修得して各部
隊へ配属された。

隊員たちは新隊員課程
で学んだ基礎的事項と教
育期間に深めた同期の絆
を糧に、各部隊等において
活躍することが期待さ
れる。



浮橋の架設準備



橋間橋節の回航



浮橋の架設

第101施設器材隊架
橋中隊は8月18日から30
日までの間、南恵庭駐屯
地、茨戸川渡河訓練場及
び江別渡河訓練場(いづ
れも北海道)で中隊間の

上級連携能力、各級指揮
官の指揮能力及び渡河に
おける施設技術能力を向
上することを目的に令和
4年度協同架設訓練

セットを用いた。茨戸川
式浮橋を合わせて計2コ
を実施した。

本訓練では第3施設団
隸下の第105施設器材
隊架橋中隊(南恵庭駐屯
地)と協同し、相互の92
式浮橋を使用し重

なる要領での渡河作業と
なった。

101架橋中隊は装備

する92式浮橋を使用し重

門橋の構築・運航を行

とともに105架橋中隊

と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所

望の成果を得て訓練目的

を達成した。

101架橋中隊は装備

する92式浮橋を使用し重

門橋の構築・運航を行

とともに105架橋中隊

と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所

望の成果を得て訓練目的

第1施設団

北方協同架設訓練

独立して行動する架橋中隊の練成

は川幅160メートルに
も及ぶ大河川であったた
め、相互の浮橋を連接さ
せる要領での渡河作業と
なった。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所

第1施設団

北方協同架設訓練

は川幅160メートルに
も及ぶ大河川であったた
め、相互の浮橋を連接さ
せる要領での渡河作業と
なった。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所

第1施設団

北方協同架設訓練

は川幅160メートルに
も及ぶ大河川であったた
め、相互の浮橋を連接さ
せる要領での渡河作業と
なった。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所

第1施設団

北方協同架設訓練

は川幅160メートルに
も及ぶ大河川であったた
め、相互の浮橋を連接さ
せる要領での渡河作業と
なった。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所

第1施設団

北方協同架設訓練

は川幅160メートルに
も及ぶ大河川であったた
め、相互の浮橋を連接さ
せる要領での渡河作業と
なった。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所

第1施設団

北方協同架設訓練

は川幅160メートルに
も及ぶ大河川であったた
め、相互の浮橋を連接さ
せる要領での渡河作業と
なった。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所
望の成果を得て訓練目的
を達成した。

101架橋中隊は装備
する92式浮橋を使用し重
門橋の構築・運航を行
とともに105架橋中隊
と密接に連携し、浮橋を

架設することができ、所

第1施設団

北方協同架設訓練

は川幅160メートルに
も及ぶ大河川であったた
め、相互の浮橋を連接さ
せる要領での渡河作業と
なった。

101架橋中隊は装備
する

シ通群**首都防衛における作戦遂行能力向上
東方管内各地で群訓練**

映像伝送のための飛行経路の確認

東部方面システム通信群は9月8日から15日までの間、東方管内の各駐・分屯地、習志野演習場及

び部外中継所に展開して、令和4年度第4回群訓練を実施した。

本訓練では基地通信組織を基盤に、首都防衛に当たる部隊へのシステム通信の提供及び情報収集のためのヘリコプターか

らの映像伝送訓練を実施するとともに、各種シス

テム通信障害、サイバ

ー攻撃等に対する対処訓練

を実施した。

また第105指揮所通信大隊と第304中枢交換通信中隊の2つの野外

部隊を一元的に運用す

ることにより、作戦遂

行能力を向上させるた

め、指揮所通信大隊長

を長とする「野外通信

隊」を編成し、野外シ

ステム通信組織を構成・

維持・運営した。

群は引き続き各駐・

分屯地における常続不

断のシステム通信を確

保するとともに、本訓

練で得た成果をさらに

深化させて、首都防衛

における作戦遂行能力

を向上させていく。



無線機を点検する隊員



協定書に署名する駐屯地司令と有吉会長



協定書を手にする駐屯地司令と有吉会長

**立川駐屯地
関東学連と協定
箱根駅伝予選会を支援**

学生陸上競技連盟と敷地の使用に関する協定を結んだ。調印式前に関東学連の有吉会長と懇談が行われ、有吉会長は

「駐屯地の支援のおかげで、

コロナ禍の2年間でも予選会

を実施できた。改めて感謝し

たい」と話した。駐屯地司令

は「応援を受けてこそ、選手

はより実力を出せると思う。

思い切って実力を出してほし

い」と激励した。

立川駐屯地は毎年、敷地の

提供、管理支援を協力してい

る。昨年、一昨年は駐屯地内

の周回コースで実施されたが、

今年は3年ぶりに新型コロナ

ウイルス感染症拡大前と同様

の市街地コースとなる。予選

会はハーフマラソンであり、

立川飛行場をスタート地点と

し、市街地を経由して国営昭

和記念公園でゴールとなるコ

ースとなつた。

今年も学生たちの熱いバト

ルが繰り広げられ、立川が大

いに盛り上がりつた。



助教の説明を熱心に聞き取る新隊員



工具の説明を受ける新隊員



教育修了式の様子

東部方面後方支援隊は9月16日をもって、令和4年度新隊員特技課程「武器」及び一般陸曹候補生支援大隊を基幹として、

課程後期「武器」教育の陸上総隊、旅団、関東処等から支援を受け、計32人の教官を臨時に編成し、

この際、教育隊長の要望え装輪、火器並びに弾薬部品作成の共通課目に加

を実施した。内容は工具、計測及び

常識やマナー、美事項等についても指導が行われた。教育担当官である第1

04全般支援大隊長緒方2佐は修了式において「諸官74人は苦楽と共に

困ったときには、相互に助け合い、今後の自衛隊勤務の基礎としてもらいたい

後支隊
後期教育修了部隊配置へ
武器科新隊員巣立つ

新隊員74人に對して7月1日から教育修了までの約2カ月半にわたり教育

陸士として必要な資質だけでなく社会人としての常識やマナー、美事項等

基礎動作の追求に留意し、強く固い絆を持つている。この同期の絆を大切にし、常識やマナー、美事項等についても指導が行われた。

教育担当官である第104全般支援大隊長緒方2佐は修了式において「諸官74人は苦楽と共に

困ったときには、相互に助け合い、今後の自衛隊勤務の基礎としてもらいたい

し、団結して築き上げた強く固い絆を持つている。この同期の絆を大切にし、常識やマナー、美事項等についても指導が行われた。

い。これからも、武器科員の「支援精神」を持ち続け、心身ともにさらにつけて成長し、活躍することを祈念する」と式辞を述べた。

新隊員は教育で修得し、基礎動作の追求に留意し、強く固い絆を持つている。この同期の絆を大切にし、常識やマナー、美事項等についても指導が行われた。

校で実施された「横浜市総合防災訓練」に小又1

訓練センターで実施され

た「川崎市総合防災訓練」

混成団**31普連が県内各地で防災訓練
関係機関と連携強化**オートバイによる被害状況の確認
(横浜市総合防災訓練)軽装甲機動車等の
装備品展示
(鎌倉市総合防災訓練)

第31普通科連隊は神奈川県内各地で毎年実施されている防災訓練に参加した。

本部管理中隊は8月21日、横浜市立富岡東中学

含む)が、重迫撃砲中隊

された「鎌倉市総合防災訓練」に屏風3佐以下25人(即応予備自衛官16人含む)が、重迫撃砲中隊

に岩本1尉以下8人がそれを参加した。各訓練では災害発災後に岩本1尉以下8人がそれを踏み出した。

校で実施された「横浜市

は9月4日、川崎市消防

訓練センターで実施され

た各会場に併設された展

示ブースにおいては、連

隊は車両や人命救助シス

テム等の展示を行い、各

関係機関等との相互理解

を深めた。

31普連は今回の訓練を

31普連は今回の訓練



神奈川地本

アメフトリーグとコラボし地域に貢献

自衛隊神奈川地方協力本部川崎出張所は9月10日、富士通スタジアム川崎（神奈川県川崎市）にて、富士通フロンティアーズとコラボレーションしてアメフトリーグを実施。この取り組みを通じて社会課題の解決を目指し、健康で豊かな未来の実現に向け、SDGs達成への取り組みを積極的に推進している。



ゴミ拾いをする隊員

川崎出張所は当日、試合開始前にラゾーナ川崎プラザから富士通スタジアム川崎までの間をゴミ拾いをする隊員を通じて社会課題の解決を目指し、健康で豊かな未来の実現に向け、SDGs達成への取り組みを積極的に推進している。

茨城地本 もしもの備えに「防災フェア!!!」蝶野氏と自衛隊をPR



蝶野 正洋氏との記念撮影

自衛隊茨城地方協力本部土浦地域事務所は9月3日及び4日、茨城県つくば市内の大型商業施設において防災フェアに参加した。

両日ともに第10-1全般支援隊の大型トラックと野炊車を展示した。初日の屋内ステージイベント「蝶野 正洋と学ぶ防災テクニック」では富士通チアーズはスポーツを通じて社会課題の解決を目指し、健康で豊かな未来の実現に向け、SDGs達成への取り組みを積極的に推進している。

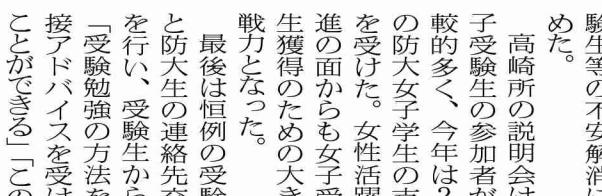
川崎出張所では「今まで以上に自衛隊と一緒に活動することができる」とPRすることができます。蝶野氏が協力して会場を盛り上げ、観客との一体感を味わい、地域の住民等に対して今まで以上に自衛隊をより知ってもらおうとしている。自衛隊の理解促進につながる広報活動を継続していく」としている。



勉強方法を熱心に話す防大男子学生(右側)



学内生活を説明する防大女子学生(右側)



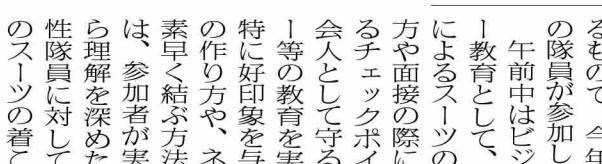
学内生活を説明する防大女子学生(右側)



学内生活を説明する防大女子学生(右側)



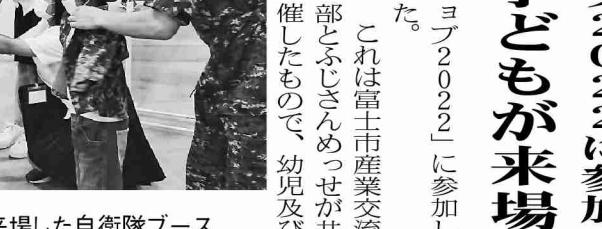
学内生活を説明する防大女子学生(右側)



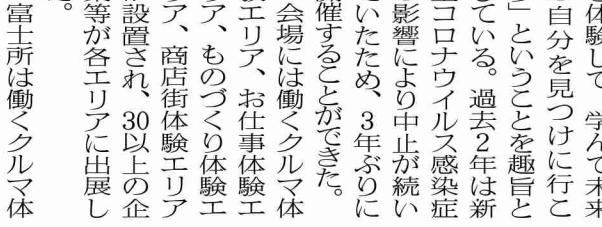
学内生活を説明する防大女子学生(右側)



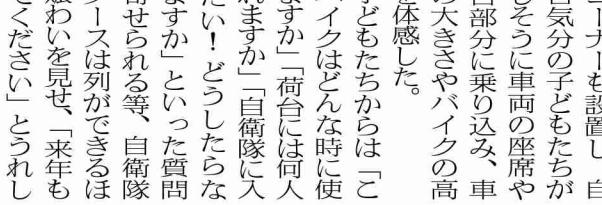
学内生活を説明する防大女子学生(右側)



学内生活を説明する防大女子学生(右側)



学内生活を説明する防大女子学生(右側)



学内生活を説明する防大女子学生(右側)

群馬地本

未来の幹部自衛官にアドバイス

回支援に来てくれている。説明会当日は受験生9人が参加した。また個別相談会で防大生は個々に自己紹介の後、防大の魅力を伝えた。

が参加した。人、保護者3人の計12人は「今回で支援も最後と

は「高崎所は今後明会に参加すると合格するというジンクスがある」と好評であった。防大4年生柳澤学生が記載されており、「アドバイスを受けていた」と話した。

明会に参加するときも一人一人の志願を大切に各種説明会を実施し、生を輩出できるよう努めたい」と話した。

群馬地本高崎所は今後も高崎所から多くの防大生を輩出できるよう努めたい」と話した。

明会に参加するときも一人一人の志願を大切に各種説明会を実施し、企業訪問等で直接見聞した情報や職場の雰囲気を交えて説明を行っており、「再就職を希望する企業に対するイメージが高まっている」と話した。

企業訪問等で直接見聞した情報や職場の雰囲気を交えて説明を行った。特に各隊員に配布した「合同企業説明会参加企業情報」が記載されており、「再就職を希望する企業に対するイメージが高まっている」と話した。

明会に参加するときも一人一人の志願を大切に各種説明会を実施し、企業訪問等で直接見聞した情報や職場の雰囲気を交えて説明を行っており、「再就職を希望する企業に対するイメージが高まっている」と話した。

明会に参加するときも一人一人の志願を大切に各種説明会を実施し、企業訪問等で直接見

めたい」と話した。

明会に参加するときも一人一人の志願を大切に各種説明会を実施し、企業訪

